

社会科学習指導案

日 時 平成20年8月29日（金） 5校時

学 級 3年A組（男子14名 女子18名 計32名）

場 所 3年A組教室

授業者 教諭 柏木 剛

1 単元名「地方の政治と自治」

2 単元について

(1) 教材観

学習指導要領では、「国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」を掲げ、主権者として政治に参加する意義を自覚させ、政治についての見方、考え方の基礎を養うことを求めている。これまで生徒は、基本的人権を中心に人間尊重についての考え方を学び、我が国の政治が日本国憲法に基づき、基本的人権を尊重する社会を築くための手立てとして民主政治を取り入れていることを学んできた。本単元では、その学習をもとに、より身近な政治である地方自治の基本的な考え方と仕組みについて学ぶとともに、住民として自分の住んでいる地域を少しでも住みよくしたいという願いのもと、地域住民としての立場から身近な地域の現状と課題について考えていくこととなる。また、各地方公共団体において地域づくりや住民運動が各地で盛んに展開されるようになった反面、地方公共団体の財政状況は豊かとは言えず、財政不足を国からの補助で補っており、地方財政の自主的な運営が行われているとは言い難い現状がある。今日、地方公共団体の仕事は増加する一方であり、住民からの要望も多様化している。多くの地方公共団体にとって、苦しい財政の中で住民の要求にどう応えていくかが大きな課題となっている。本単元は身近な地方公共団体の政治について取り上げ学習を進めることから、生徒の日常生活に関わりの深いものが多く、学習資料も豊富である。また、生徒のこれまでの経験や実際に感じていることを生かしながら学習を進めることが可能である。したがって地方自治について身近な生活との関連から追及することは、地域社会への関心を高めるとともに、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることができるものと考えられる。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、男女とも落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいる。また、与えられた課題や作業等にも真剣に取り組む姿勢が見られる。しかし、改まった場での発表や意見交換、自分の考えや根拠を明確にしながらまとめることを苦手としている。また、家庭学習への取り組み状況の差や学力差があり、社会科に対して消極的になっている生徒も少なからず存在する。

(3) 指導観

地方自治の考え方は住民参加による地方自治に基づくものであり、自分たちの住む地域の生活環境をより良いものにしていこうという考え方から成り立つものと考えられる。よって、身近な政治である地方自治の基本的な考え方と仕組みについて学ぶとともに、自分たちの住む地域の具体的な内容を取り上げながら、自分たちの住む地域の現状を把握し、地域住民としての立場から自分たちの住む地域の課題と住民として地域を少しでも住みよくしたいという願いを踏まえ、これからの宮古市の財政について考えさせたい。また、地域社会への関心を高め、将来、さらに住み良い町にするにはどのようなことが必要なのかを考え、お互いの考えを意見交換する場を設けることで、生徒の地方自治への関心と問題点に対して考える力を高められるよう指導していきたい。

3 単元の指導目標

【関心・意欲・態度】

身近な地域の政治について進んで調べ、地域住民の1人としてそのあり方を考えようとしている。

【思考・判断】

自分たちの住む地域の財政の現状を知り、課題や今後力を入れて取り組むべき内容等について根拠を持って、考えることができる。

【技能・表現】

自分たちの住む地域の「まちづくり」について資料から読み取り、課題や今後力を入れて取り組むべき内容等を把握することができる。

【知識・理解】

地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組みについて理解する。

4 単元の指導計画と評価基準

(1) 単元の指導計画

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ① 私たちと地方自治 | 1 時間 |
| ② 地方分権と住民参加 | 1 時間 |
| ③ まちづくりについて調べる | 2 時間 (2 / 2 時間目・・・本時) |
| ④ 市町村合併と地域づくり | 1 時間 |
| ⑤ 私たちと日本の政治 | 1 時間 |

(2) 単元の評価計画

	学習目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
わたし たちと 地方自 治	・地方自治の基本的な 考え方や仕組みを理 解する ・資料を活用し身近な 地域の地方自治につ いて調べることがで きる。			身近な地域の資料を 活用し、地方自治の基 本的な考え方と仕組 みについて調べるこ とができる。	地方自治の基本的な 考え方と仕組みを理 解している。
地方分 権と住 民参加	・地方分権の考え方と 現状について調べ、ま とめる。 ・住民参加の方法は 様々な方法があるこ とを理解する。			地方自治の現状を財 政面から調べ、まとめ ることができる。	住民の政治参加方法 について理解する。
まちづ くり について 調べる。 (本時)	・自分達の住む地域の 「まちづくり」につい て調べ、まとめる。 ・財政面から、将来の まちづくりを考え、ま とめることができる。	・将来のまちづくりに ついて自分の考えを 持ち積極的に意見を 発表することができる。	・将来のまちづくりに ついて現状を踏まえ ながら、財政面をと おして、考えること ができる。	・宮古市総合計画をも とに自分たちの住む 地域のまちづくりに ついて資料からよみ とり、まとめる。	

市町村合併と地域づくり	・合併を含め、地域づくりの意義と重要性について具体的事例に基づき、理解する。 ・地域づくりに関心を持ち、進んで地域の活動に参加しようとする意欲を持つ。	各地方自治体の「地域づくり」に関心を持ち、取り組みについて意欲的に調べることができる。			市町村合併の動きや地域づくりについて意義や重要性を具体的に理解している。
わたしたちと日本の政治	・現代社会の課題にはどのようなものがあるのか発表しあう。 ・今後、自分がどのように地域社会や政治に関わるかを考える。		学習を振り返り、自らと政治との関わりについて様々な側面から考えることができる。		既習事項や新聞記事などを手がかりに現代社会の課題にはどのようなものがあるかを理解している。

5 本時の学習活動

(1) 本時の主題

第3節 地方の政治と自治

まちづくりについて調べよう。

(2) 本時の学習目標

宮古市をさらに住みよい町にするために財政面から考えよう。

(3) 本時の評価計画

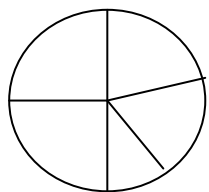
領域	A：十分満足できる。	B：おおむね満足できる。	努力を要する状況の生徒への手立て
関心・意欲・態度	将来のまちづくりについて自分の考えを持ち、積極的に意見を発表することができる。	将来のまちづくりについて自分の考えを持ち、意見を発表することができる。	机間指導をしながら、発表ができるように、自分の考えをまとめられるよう支援する。
思考・判断	・将来のまちづくりについて現状を踏まえながら、財政面をとおして、考えることができる。	将来のまちづくりについて財政面を通して考えることができる。	机間指導をしながら、考える視点を与える。

(4) 学習展開案

時間	学習内容	教師の活動	予想される生徒の活動	指導上の留意点・評価
はじめ 10分	①前時の復習 ②事前のアンケートの紹介 ③学習課題の提示	・宮古市のまちづくりの現状を確認する。 ・アンケートを集計したものを紹介する。 ・本時の学習課題を提示する。	・宮古市総合計画をもとに振り返る。 ・自分たちの中でのまちづくりに対する考えを確認する。 ・学習課題を学習プリントに記入する。	・学習プリントの配布
宮古市をさらに住みよい町にするために財政面（歳出）から考えよう。				
展開 35分	③将来の宮古市の財政（歳出）についてグループで考える。（円グラフにまとめる。） ④考えた内容についてグループごとに発表する。 ⑤発表した内容について意見を交流する。 ⑥将来の宮古市について考えをまとめる。	・個々に事前に考えた歳出の内容の優先順位をもとにグループで考え、円グラフにまとめさせる。 ・グループで考えた歳出の円グラフを用いて、発表させる。 ・発表した内容について賛成・反対や気がついたことなどを発表させる。 ・仲間の考えを含め、今後宮古市が住みよいまちづくりをすすめていけば良いかを財政面からまとめさせる。	・グループで話し合い、まとめる。 ・グループごとに発表する。 ・賛成・反対意見、気付いたことなどを発表する。 ・今日の学習内容を振り返り、自分の考えをまとめる。	・考え方、まとめ方の進め方の指示 ・机間指導。 ★関心・意欲 評価方法：学習プリント、評価プリント。 ・発表の進め方の確認。 ★思考・判断 評価方法：学習プリント
まとめ 5分	⑦まとめ ⑧次時の予告	・自分の考えたことを発表させる。	・自分の考えを発表する。	・歳入との関わりについても触れる。

6 板書計画

宮古市をさらに住みよい町にするために財政面（歳出）から考えよう。



1班 理由

.....
.....

2班

3班

4班

5班

6班